道はいつもひらかれている！

－教職生活３８年間　道はいつもひらかれていた－

宮城県教育庁　教育次長　清元けい子

昭和５５年～	気仙沼市立条南中学校・教諭	昭和６０年～	南方町立南方中学校・教諭
平成　６年～	石越町立石越中学校・教諭	平成１３年～	宮城県栗原教育事務所・指導主事
平成１５年～	宮城県教育庁義務教育課・指導主事	平成１７年～	登米市立豊里中学校・教頭
平成２０年～	石巻市立青葉中学校・校長	平成２２年～	宮城県教育庁義務教育課・指導主事
平成２４年～	宮城県東部教育事務所登米地域事務所･管理主事	平成２６年～	宮城県東部教育事務所・所長
平成２８年～	宮城県教育庁義務教育課・課長	平成２９年～	宮城県教育庁・教育次長

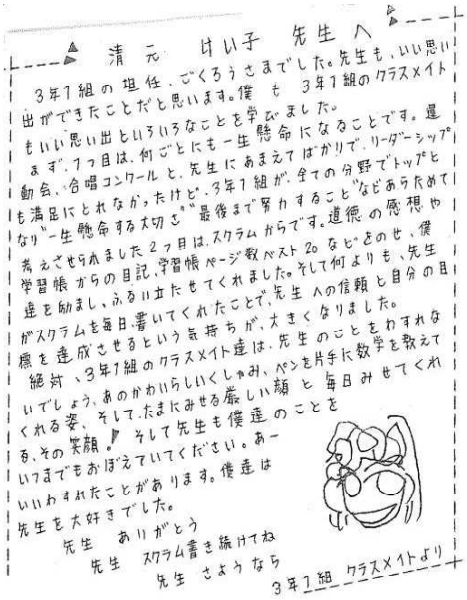
はじめに

「道は，すべての人の前に開かれている。その人に，やる気があるかないかだけである。」私が学級担任をしていた頃，道徳の授業で扱っていた古谷綱武の詩の一節です。「自分の人生は，自分がどう思って生きるかで切り開いていけるのだ」ということを実感してほしい，身をもって体験してほしいという思いで１年のスタートや卒業間際の時期に扱っていましたが，今思えば子供たちだけでなく，実は自分自身を支える言葉でもあったような気がします。

昭和５５年４月に小学生の頃からの夢をかなえるべく，宮城県の中学校教師として教壇に立ってから３８年が経とうとしています。教諭として３校の中学校に勤務し，行政職を経て，中学校２校でそれぞれ教頭，校長という管理職を経験しました。平成２２年からは学校現場を離れ，現在は宮城県教育庁の教育次長として県内全体を俯瞰する教育行政の仕事に携わっています。

教師としての醍醐味

中学生時代というのは多感で難しい年頃だとも言われますが，その分成長の度合いも大きく，担任として共に泣いたり笑ったり，腹を立てたりと，本気でぶつかり合う中で子供たちを通して多くの気づきと感動をもらいました。子供は正直で，こちらが手を抜けばそれを敏感に感じ取り，懸命に向き合えば，必ずその思いに応えてくれます。様々なことに悩みながらも必死に何かをつかもうとする生徒の思いは，授業の中での何気ないつぶやきや部活動で見せる真剣な姿，毎日提出される学習帳の感想からもひしひしと伝わり，学級だよりを書き続けることでその思いに応え，子供たちと「思い」のやりとりをしていたように思います。



清元　けい子　先生へ

3年7組の担任、ごくろうさまでした。先生も、いい思い出ができたことだと思います。僕　も　3年7組のクラスメイトもいい思い出といろいろなことを学びました。

まず、1ヶ月は、何ごとにも一生懸命になることです。運動会、合唱コンクールと、先生にあまえてばかりで、リーダーシップも満足にとれなかったけど、3年7組が全ての分野でトップとなり一生懸命する大切さ"最後まで努力すること"などあらためて考えさせられました。2ヶ月は、スクラムからです。道徳の感想や学習帳からの日記、学習帳ページ数ベスト20などをのせ、僕達を励まし、ふるいたたせてくれました。そして何よりも、先生がスクラムを毎日書いてくれたことで、先生への信頼と自分の目標を達成させるという気持ちが、大きくなりました。

絶対、3年7組のクラスメイト達は、先生のことをわすれないでしょう。あのかわいらしいくしゃみ、ペンを片手に数学を教えてくれる姿、そして、たまにみせる厳しい顔と毎日みせてくれる、その笑顔！そして先生も僕達のことをいつまでもおぼえていてください。あーいわれたことがあります。僕達は先生を大好きでした。

先生　ありがとう
先生　スクラム書き続けてね
先生　さようなら

3年7組　クラスメイトより

先日，バスを降りようとしたところ運転手さんから「清元先生！」と声をかけられました。教頭時代の教え子だとわかると同時に，車内のアナウンスからも，誠実な仕事ぶりがうかがえうれしく思いました。職が変わる度に近況報告に来てくれる教え子もおり，在学中のみならず，卒業してからも，社会人として成長した姿，すっかり大人になった考え方に触れる度に，教師という仕事は長きにわたって人間の成長に携われる魅力的な仕事だと感じます。

人とかかわり，生き方をもとめ，役割をはたす

教師の仕事は将来を担う人材を育てることにあると言われます。東日本大震災を経て，ますますその思いを強くし，教育の果たす役割の大きさを感じています。

震災の５ヶ月前に本県では「みやぎの志教育プラン」を発信しました。小・中・高等学校の全時期を通じて，子供たちが人や社会とかかわる中で社会性や勤労観を養い，その中で自分が果たすべき役割を考えさせ，将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に求めさせたい，そういう思いで発信したものでした。はからずもこの取組は本県復興の歩みと軌を一にすることになります。

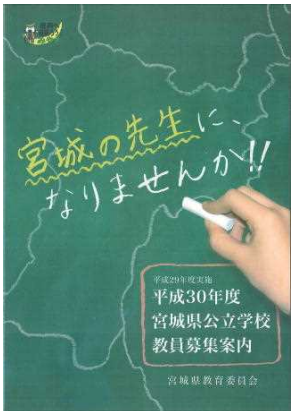
この６年間，地域貢献も含め，今自分にできることは何だろうと真剣に考え，できることからやっていこうという子供たちの主体的な姿をずっと見てきました。いじめをなくそうと真剣に話し合う中学生や，マナーアップに取り組む高校生，チームで学びに向かう小学生。特に，今年宮城で開催される総文祭やインターハイのために大会の運営や準備に携わっている高校生の姿は一段と頼もしく，輝いて見えました。そして，これらの活動の裏には，携わっている教師の大きな支えがあることも感じています。

志教育プランを作成するときに，社会人となってもこの理念は続いていくものだと課内で確認し合ったことを憶えています。大人になっても志を高く持ち，かかわり，もとめ続け，自分の役割を果たしていくことの大切さは変わらないのだと思います。

年を経て職が変わるにつれ，生徒のみならず，教師を育てることも大事な仕事であるということを感じてきました。初任の頃は，先輩方に迷惑をかけつつ，温かくも厳しく育てていただきました。どの職場にも，自分が理想とする先輩教師がいて，何気ない会話や子供たちに接する姿から多くのことを学びました。自分が先輩教師と呼ばれるようになり，後輩を交えて授業づくりや学級づくりに取り組む中で共によりよいものを目指して成長し合えたように思います。学校外への研修に出たり，校内での実践研究に取り組んだりする中で，それがすべて自分のレベルアップにつながっていく，つまり日々の仕事が実は自己成長に直結するという，なんて恵まれた職なのだろうとよく思ったものでした。

地域に根ざして

今回の教員選考採用に当たってはいくつかの新たな取組を示しており，その中のひとつに「地域採用枠」というものがあります。その地域に１０年程度勤務し，その地域の方々と共に地域に根ざした教育に携わってほしいとの思いがあります。小学校に限らず，どの校種においても，どの職種においても共通することかもしれません。地域にどっしりと根を下ろし，地域の様々な人とかかわり，思いを一つにしながら，子供たちの成長を手助けしていく，そんな教師の姿を見て，実は自分も教師になろうと思ったのでした。



現在は，小・中学校に限らず，県立学校においてもまさに地域の学校として果たす役割は大きいものがあります。それだけ地域からの期待も大きく，また学校を応援していこうという人も多くなってきています。

一人ではできないことも，みんなでやることによって実現可能となり得ると実感させることは子供たちの大きな成長につながると身をもって感じています。それは子供に限りません。チーム学校として地域が一体となって取り組む大人たちのわくわく感や充実感は子供たちにもしっかりと伝わっていくものだと思っています。

おわりに

教職生活３８年間，様々な職を経験し，その職でなければ出会うことのなかった人々と出会い，多くの感動的な場面に立ち会うことができました。子供とともに成長し，様々なことに挑戦することができたように思います。宮城の教員になった自分に，道はいつもひらかれていたのです。

「感動は一生懸命の熱い風」という言葉があります。子供たちの毎日のほんのささやかな変化や成長が私たちの一生懸命の原動力であり，何にも代えがたい喜びでもあります。きらきらした子供たちの目を見ながら，一緒に授業をつくり，子供たちの人生に関わっていける…そんな仕事をしながら，実は自分の人生をも豊かにすることにつながるのだという教師の仕事を，ここ宮城でしてみませんか！